

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土東小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 国語科において、「主語・述語の理解」、「目的に応じて適切に文章を読み取ること」に課題が見られる。 <学習上の課題> 算数科において、「複数の数量から必要な数量を選んで立式すること」に課題が見られる。	ICTの効果的な活用により、レディネス問題や適用問題を通して児童が何をどれだけ理解しているかを教師が把握するとともに、理解度に合った問題に取り組み機会を設けることで、児童に必要な個別最適な学びを表現できるようにする。【さいたま市学習状況調査の平均正答率の比較(前年度比)】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 身に付けた知識や理解していることを、場面や目的に応じて活用することに課題が見られる。 <指導上の課題> 思考を要する問題や自らの考えを文章等で表現する課題において、粘り強く問題や課題に取り組むことに課題が見られる。	学習活動の中で、児童が主体的に判断し、思考・表現する場面を確実に位置付ける。また、タブレット等のICTを活用しながら、獲得した知識を基に議論や発表を行ったり、クラウドを基盤とした協働学習を実施したりすることを通して、児童の思考力・表現力の向上、児童の学びに対する意欲の向上を図っていく。【さいたま市学習状況調査の平均正答率の比較(前年度比)、学習成果物、学びの指標アンケート】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	調査の振り返り(4月) ①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告	
思考・判断・表現	結果提供(7月)	

調査結果分析(7~8月)
 ①結果分析(管理職・学年主任等)
 ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現	中間評価(9月) 目標・策の見直し	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土東小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語では、「主語・述語の理解」「目的に応じて適切に文章を読み取る」こと、算数では、「複数の数量から必要な数量を選んで立式すること」に課題が見られた。ICTの積極的な活用により、レディネス問題や適用問題を通して、児童が何をどれだけ理解しているかを知るとともに、理解度に合った問題に取り組む機会を設けることで、児童に必要な個別最適な学びを表現できるようにする。
思考・判断・表現	身に付けた知識や理解していることを、場面や目的に応じて活用することに課題が見られる。これまでの方策を引き継ぎ、学習活動の中で児童が主体的に判断し、思考・表現する場面を確実に位置付ける。また、タブレット等のICTを活用しながら、獲得した知識を基に議論や発表をしたり、クラウドを基盤とした協働学習を行ったりすることを通して、児童の思考力・表現力の向上を図っていく。
主体的に学習に取り組む態度	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」「〇〇の勉強は好きですか。」について今年度よりも高い回答が得られるよう、日々の授業の中で身に付いた資質・能力をメタ認知できる機会を積極的に設け、児童の主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	・R5年度さいたま市学習状況調査「国語」「算数」の「知識・技能」に関わる領域において、前年度の自校結果より向上させる。 ・さいたま市学習状況調査の「授業内容を理解できている」肯定的回答を95%以上とする。	⇒ ・タブレット型端末を効果的に活用し、授業や家庭学習などで、個別最適な学びが実現できるよう、学習環境を整える。 ・学習計画の中で、めあての確認や学習の振り返りを位置づけ、次の学習に生かすことができるようにする。
思考・判断・表現	・R5年度さいたま市学習状況調査「国語」「算数」の「思考・判断・表現」に関わる領域において、前年度の自校結果より向上させる。	⇒ ・さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業の実施により、学習活動の中で児童が主体的に判断し、思考・表現する場面を確実に位置付ける。学校課題研修「主体的・対話的で深い学び」について各自のテーマに沿って研鑽を深め、授業改善を行う。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」において、肯定的な回答を前年度より向上させる。	⇒ ・タブレット型端末とアナログの両輪で、児童が学び方を自由に選択できるようにすることで、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・身に付いた資質・能力をメタ認知できるよう機会を設ける。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	・R5年度さいたま市学習状況調査「国語」「算数」の「知識・技能」に関わる領域において、前年度の自校結果よりもやや下回る結果となった。 ・さいたま市学習状況調査の「授業内容を理解できている」という質問に対し、国語・社会・理科では、95%に近い児童が肯定的に回答しているが、算数では90%を下回っており、課題が見られた。	B
思考・判断・表現	・R5年度さいたま市学習状況調査「国語」「算数」の「思考・判断・表現」に関わる領域において、前年度の自校結果より向上させることを目標としていたが、全ての学年でR4年度よりも0.5~3pt下回る結果となった。	B
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対し、92%を超える児童が肯定的な回答をしており、R4年度の結果よりも向上した。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」においても、91%を超える児童が肯定的に回答しており、R4年度の結果よりも向上した。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	・R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国平均と比較した値を見ると、R4に比べ国語-3pt、算数-1ptであった。国語では、情報と情報を結び付けて考える問題において無解答率も多く、課題が見られる。算数では、表から求めたい情報を読み取ることや、図形の意味や性質についての理解に課題があった。国語・算数ともに基礎・基本の習得とともに、適切に題意を理解し、問題を読み解く力を伸ばすよう授業改善に努める。
思考・判断・表現	・R5年度全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」において、全国平均と比較した値を見ると、R4に比べ国語-5.2pt、算数-2.5ptであった。国語・算数ともに全国平均を下回った。国語では、自分の考えをまとめて記述する問題に課題がある。算数では「B図形」「C変化と関係」において、考え方・求め方を式や言葉で表現することに課題がある。問題の場面を適切に理解し、式や図などと関連付けて表現することができるよう指導を徹底していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は92%であり、R4と比較して3pt向上している。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目においても90%と1pt向上しており、「協働的な学び」が充実している傾向が見られる。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の中間把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、国語・算数ともにR4年度調査結果とほぼ同じ結果となった。国語の「登場人物の性格を想像しながら読む」こと、算数の「除法の場面を捉える問題」や「単位の関係についての理解」に課題が見られる。「図形」のポイントが向上したことについては、実物やICTの効果的な活用により、理解が深まったと考えられる。教科への興味・関心については、肯定的な回答の割合が、全ての教科で市の平均を上回り、前向きに学習に取り組んでいることがわかる。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、国語・算数ともにR4年度調査結果から-2ptという結果となった。国語では、「主語・述語の理解」や「目的に応じて、中心になる語や文を捉えて文章を読む」ことに課題が見られた。算数では、「データの活用」や「複数の数量から必要な数量を選んで立式すること」で無回答率が高く、課題である。教科への興味・関心については、肯定的な回答の割合が、国語・理科・社会で市の平均を上回り、前向きに学習に取り組んでいることがわかる。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査結果と比較すると国語は+1pt、算数は-1pという結果となった。国語の「話し手の意図を捉えながら聞き、効果的に助言すること」への無回答率と誤答率が高く、課題である。算数では、「複合グラフの読み取り」「複数の数量から必要な数量を選び立式すること」に課題が見られた。教科への興味・関心については、肯定的な回答の割合が、国語、算数は市の平均を下回ったが社会・理科については80%以上と上回った。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査結果と比較すると国語は-1pt、算数は変化なしという結果となった。国語の「適切に敬語を使う」こと、算数の「円グラフの読み取り」「問題の場面を把握して求める」ことに課題が見られた。算数で「データを表にまとめる」問題では、市の平均を上回り、力が身に付いていることがわかる。教科への興味・関心については、肯定的な回答の割合が、国語、算数は市の平均を下回ったが社会・理科については市の平均を上回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	・R5年度さいたま市学習状況調査「国語」「算数」の「知識・技能」に関わる領域において、前年度の自校結果より向上させる。 ・さいたま市学習状況調査の「授業内容を理解できている」肯定的回答を95%以上とする。	⇒ ・タブレットを効果的に活用し、授業や家庭学習などで、個別最適な学びが実現できるよう、より一層学習環境の充実を図る。 ・文章や問題文、図や表から適切に情報を読み取る機会を増やし、題意を理解し自分で問題に取り組む力を育む。
思考・判断・表現	・R5年度さいたま市学習状況調査「国語」「算数」の「思考・判断・表現」に関わる領域において、前年度の自校結果より向上させる。	⇒ ・さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業の実施により、学習活動の中で児童が主体的に判断し、思考・表現する場面を確実に位置付ける。クラウドを基盤とした協働学習を通して、児童の思考力・表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	・R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」において、肯定的な回答を前年度より向上させる。	⇒ ・タブレット型端末とアナログの両輪で、児童が学び方を自由に選択できるようにすることで、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・身に付いた資質・能力をメタ認知できるよう機会を設ける。